

## 研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-750	A-141	24-058	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Patients with alcohol abuse have higher risks of complications after coronary artery bypass grafting: A population-based study of National Inpatient Sample from 2015 to 2020 アルコール乱用患者は冠動脈バイパス術後の合併症リスクが高い： 2015 年から 2020 年までの全米入院患者研究			
執筆者			
Li R, Prastein DJ.			
掲載誌			
Alcohol. 2024 Nov;120:51-57. doi: 10.1016/j.alcohol.2024.03.002.			
キーワード			PMID
冠動脈バイパス移植、血行再建、アルコール、冠動脈疾患、エタノール			38452863
要 旨			
<p><b>背景：</b>アルコール乱用患者（AA）は心血管系の健康に悪影響を及ぼすことが証明されているが、冠動脈バイパス術（CABG）の転帰に対する AA の影響については、明確でない。本研究では、CABG 後の院内転帰を AA 患者と非 AA 患者で比較することを目的とした。</p> <p><b>方法：</b>2015 年第 4 四半期から 2020 年までの全米入院患者データベースから、ICD10-PCS に基づいて CABG を受けた患者を同定した。AA 患者は、ICD10-CM の F10、G62.1、I42.6、K29.20、K29.21 および O99.31 に基づき選択した。18 歳未満、大動脈弁置換術および僧帽弁置換術を含む同時手術患者は除外した。CABG 後の転帰（死亡率、主要血管イベント（MACE）、心筋梗塞、脳卒中、一過性脳虚血発作、神経学的合併症、心膜合併症、ペースメーカー植込み、心原性ショック、呼吸器合併症、機械的人工呼吸器、急性腎障害、術後腎不全、静脈血栓塞栓症、肺塞栓症、出血/血腫、感染症、敗血症、浅部創傷合併症、深部創傷合併症、血管合併症、横隔膜麻痺、出血抑制のための再手術）をアウトカムとした。術前因子および術後アウトカム比較には Fisher の正確検定を用いた。1：3（AA：非 AA）の傾向スコアマッチングを行い、人口統計、社会経済的状態、一次支払者の状態、病院の特徴、併存疾患、転院/入院の状態を調整した。連続変数の比較には t 検定を用いた。</p> <p><b>結果：</b>CABG を受けた AA 患者は 5694 例（3.39%）であった。非 AA 患者 162,488 例から 17,315 例がすべての AA 患者とマッチングした。AA 患者と非 AA 患者の死亡率（1.64%、<math>p=0.67</math>）と MACE（2.46%、<math>p=0.73</math>）に有意な差は見られなかった。しかし、AA 群では心原性ショック（8.31%、<math>p=0.03</math>）、機械的人工呼吸器（11.51%、<math>p&lt;0.01</math>）、出血/血腫（57.49%、<math>p&lt;0.01</math>）、浅部創傷合併症（0.99%、<math>p&lt;0.01</math>）、深部創傷合併症（0.37%、<math>p=0.02</math>）、出血抑制のための再手術（0.92%、<math>p=0.03</math>）、転院（21.00%、<math>p&lt;0.01</math>）、入院から手術までの期間延長（<math>p&lt;0.01</math>）、入院期間延長（<math>p&lt;0.01</math>）、入院費増加（<math>p&lt;0.01</math>）に有意差が認められた。</p> <p><b>結論：</b>AA と CABG 後の院内死亡率や MACE との関連は認められなかったが、術後合併症とは独立して関連していた。これらの所見は、AA 患者の術前リスク層別化を強化し、CABG 後の術後管理に役立つ可能性がある。</p>			